

飯能市教育委員会

1 研究主題

幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を目指す幼・保・小連携体制の研究
—子どもの交流・教職員の交流を通して—

2 ねらい

幼・保・小の教職員の交流、児童の交流をとおり、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指す。

3 本市における各学校等の設置状況（平成21年4月1日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市町村立	私立	合計	市町村立	私立	合計	市町村立
施設数	1	6	7	12	4	16	14
幼児・児童数	48	822	870	769	153	922	769
教職員数	6	88	94	208	78	286	443

4 幼・保・小連携のための組織

飯能市幼年教育連絡協議会

各幼稚園 園長、代表教諭

各保育所 所長、代表保育士

各保育園 園長、代表保育士

各小学校 校長、代表教諭

役員 幼稚園長代表（会長、副会長、理事、監事） 保育所長代表（理事）
小学校長代表（副会長、理事） 市職員（子ども家庭課長、学校教育課長） 事務局（学校教育課指導主事）

5 事業の年間計画

時期	飯能市幼年教育連絡協議会	各幼稚園・保育所・小学校
6月	・理事会	
7月	・総会及び講演会	・総会及び講演会参加

9月		<p>グループ別実践研究</p> <p>○教育課程の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流 集会活動への招待等 ・交流活動計画検討会 生活科、総合学習 ・教育内容の検討 <p>○情報の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の交流 合同研修会、情報交換会等
10月		
11月	・ 授業研究会（地区別） 小学校授業参観 （生活科、交流活動等）	
12月		
1月	・ 研修会 グループ別実践報告会	
2月		
3月	・ 報告書の作成	・ 研修会でのグループ実践報告

6 研究の具体的な取組

(1) 幼年教育連絡協議会総会・講演会

ア 総会

- ・ 平成20年度事業報告並びに決算報告
- ・ 平成21年度役員
- ・ 平成21年度事業計画並びに予算案

イ 講演会

講師 青山学院短期大学准教授 浅見 均 先生
演題 「幼・保・小の連携の在り方」



青山学院短期大学
浅見均 准教授の講演

(2) グループ別（各地域）の幼・保・小連携の実践

ア 教育課程の連携（児童同士の交流）

- ・ 加治小学校と加治幼稚園の交流

1 目的

幼児が小学生と直接触れ合う中で親しみを感じ、小学校の様子や仕組みを知り、小学校入学に期待をもつ。

2 概要

- ア 12月 小学生が幼稚園に行き、遊ぶ
- イ 1月 幼稚園児が小学校へ行き、遊ぶ
- ウ 1月 グループで校内探検・昼食



幼稚園での交流（小学生との遊び）

- ・ 精明小学校とわかば幼稚園の連携

- | | | |
|---|-----|---------------------------------------|
| ① | 6月 | 「まちのたんけん」
2年生児童が幼稚園へ |
| ② | 7月 | 「七夕の会」
幼稚園の行事に1・2年生児童を招待 |
| ③ | 11月 | 「みんなで作ろうフェスティバル」
2年生のフェスティバルに園児を招待 |



みんなで作ろうフェスティバルの様子

- ・ 原市場小学校と原市場保育所の連携

- 2年生 生活科「あきまつり」
- 1年生と保育所の幼児を招待
- 2年生…遊びコーナーを準備し、優しくお世話をする
- 1年生…幼児のお世話をしながら、仲良く楽しく遊ぶ



あきまつりの様子

- ・ 加治東小学校と加治東保育所の連携

- 1年生活科「あきまつりであそぼう」で幼児を招待し秋祭りを楽しむ。



「あきまつりであそぼう」の交流の様子

イ 情報連携（教職員同士の交流）

- ・ 飯能第一小学校と幼稚園・保育所の連携

<連絡協議会の内容>

- ・ 小学校の説明
1年生の学校生活、様子
- ・ 情報交換
各幼稚園、保育所の取組
- ・ 意見交換



幼・保・小連絡協議会

(3) 保育所児童保育要録の作成

- ・ 飯能市として保育所児童保育要録の様式を作成

保育要録の扱い

- 1 3月末日までに小学校に送付する。
- 2 各保育所が直接小学校に送付する。
- 3 特記事項には、5領域に関わること以外の事項を書く。例えば、健康状態、排泄や食事など基本的な生活習慣の確立の程度、先生等の話を聞くことができるか、気になる点、交友関係などについて記入する。

(4) 幼年教育連絡協議会研修会

ア 各グループごとの実践報告

イ 指導講評 青山学院女子短期大学教授 浅見 均 先生

7 成果と課題

(1) 成果

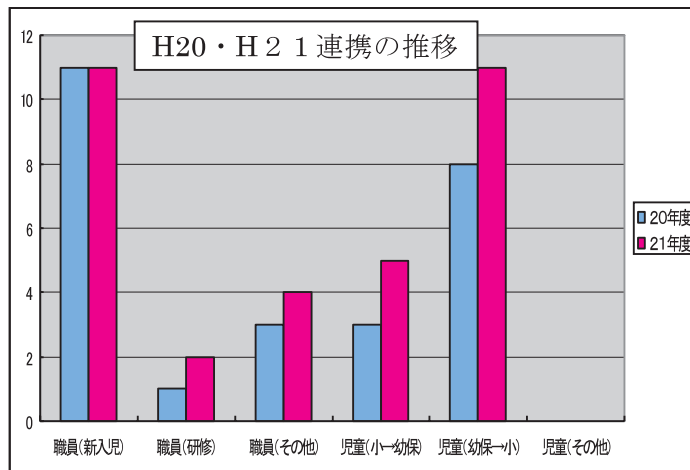
ア 教育課程の接続

- ・ 就学前児童の不安を取り除き、小学校入学への期待感を持たせる。
- ・ 生活科や総合を活かして、小学校における学習効果を上げる。
- ・ 交流活動の実施が幼児・児童についての情報交換の場となる。

イ 情報の共有（教職員の交流）

- ・ 幼・保・小の教職員が、互いに指導上の悩みを共有できた。
- ・ 幼・保・小における「学び」について共通理解が図れた。
- ・ 協議会が、各校園の交流活動の日程調整等、打合せを行う場にもなった。

ウ 市内の連携体制を構築したことによって、幼・保・小間の連携・交流が促進された。
(グラフ参照)



(2) 課題

ア 教育課程の接続

- ・ 児童同士の交流はあったが、学習や行事の計画段階からの連携は難しい面もあった。
- ・ 地域や学校の規模による取組の差があった。
- ・ 幼・保・小が協力し、互いの学びを理解した接続カリキュラムの検討が課題。

イ 情報の共有（教職員の交流）

- ・ 時間の確保に工夫が必要。
- ・ 地域や学校によって連携の取組に差があり、幼・保・小の教職員にさらなる意識啓発が必要。

ウ 今後も、日常的継続的な連携がとれるように連携体制の充実に努める。